

スポーツは、愛と進化の欲求を満たすための基礎的な営み

すべての人に共通の「自己実現の欲求」は愛と進化への欲求です。愛されたい、愛したい、というのは、人間の根本的な欲求ではないでしょうか？

進化とは成長のことです。どんな人も成長したいし、成長を求めているし、成長の権利があるはずです。この人間が持つ二大自己実現欲求の基礎が、やはりスポーツによって誰にでも平等にもたらされるチャンスがあると私は確信しています。

愛とは人間関係の基礎の欲求であり、成長とは自分自身の中にある普遍的な欲求です。だからこそ、すべての人はこの2つのスキルを先天的に有しているというわけです。スポーツの基本は自分を見つめて、他者との関係の中でパフォーマンスしていくという活動です。まさにスポーツは、この愛と進化への欲求を満たしたり学んだりできる、人間としての自己実現欲求の基礎的な営みなのです。

団体スポーツでのチームワークはもちろん、個人スポーツでもひとりでは何事も成し遂げることができないのがスポーツです。スポーツに触れることで、この愛の自己実現欲求を満たしてくれる経験に、これでもかというほど何度も出合うのではないのでしょうか。

また、スポーツは常に自分自身を見つめ振り返ることを課せられる活動です。成長を常に追い求め、勝敗と同時に自身の成長を突き付けられることになるのがスポーツです。

スポーツによって、成長ということを意識できるようになることが、自己実現欲求を満たす活動だと断言できる理由でもあります。愛と進化こそが人間としての存在意義であり、この存在意義を謳歌するヒントがスポーツにはあるのだと声を大にしてみなさんにお伝えしたいと思います。

つまり、勝ち負けだけがわかりやすく、スポーツはその部分だけが取り上げられがちになる一方で、もっと高次元の人間欲求を満たしてくれる活動として、人類学的存在意義があるのです。スポーツは勝ちと負けのためではなく、愛と進化のために存在するのだと考えるだけで、スポーツの見え方が確実に違ってくるはずなのです。それがわかればスポーツは、人間として育まれる人間形成に大切な活動だということがわかるはずです。